

# 図工のみかた



図工の先生そのまわり  
MIKATA NO MIKATA

## 図工のみかたのみかた

今号の図工のみかた、竹井先生の物事への深い思い入れを教えてくださいました。



**う** つくしくないよ  
あかんし、  
道具って  
いうのは。



先生が道具を選ぶときに  
まず大事なのはフォルム。  
フォルムが美しい道具は、  
使ったときの感触もよく、  
機能性が高いものが多いと  
思っている。

**だ** からだカンは、  
きれいに魚、  
食べたー



豆の挽き方、お湯の温度、  
点滴の方法とかを自分で調整して、  
豆のよさを引き出したり、  
自分の好みの味を探す。それは、  
モノとの対話の中で、  
自分に合うモノをつくりだすこと  
につながる先生は考える。

**金** 属とすんじに  
仲良くなれる  
感じがある。

ダグラス・ダンカンが撮った  
ピカソ。魚の食べ方の美しさに、  
ピカソの生命に対する思いが表れていると  
先生は解釈。命と向き合う大切さという  
原点に戻るため、いつでも見られるように  
研究室に飾っている。

**す** きなもの  
いっしょに  
いっしょに



**い** い刃物って、  
ものを分ける  
って感じ。

小学2年生のときに本気で「風に乗って  
空を飛びたい」と思い、大風を自分でつ  
くると大失敗。自分のアホさ加減に大  
笑いする。今でも懲りずに風づくりに励  
む。子どもにも大笑いできるほどの失  
敗をして、それをバネに次に進むという  
経験をしてほしいというのが信条。

豆の挽き方、お湯の温度、  
点滴の方法とかを自分で調整して、  
豆のよさを引き出したり、  
自分の好みの味を探す。それは、  
モノとの対話の中で、  
自分に合うモノをつくりだすこと  
につながる先生は考える。

いいハサミは、切るときにどんな素材  
かが手に伝わってくるし、いい爪切りは、  
切るときに感じがバチンではなく、「サク  
ッ」らしい。

インタビュー中に先生が好きと言ったもの：真鍮  
製のカメラで地金が出てきたもの、道具売り場、  
測ること、ハサミ、職人、究極のもの、ヘビデュー  
ティでエレガントなもの、調整すること。

「ステンレス鋼は優秀な鋼材だけど拒絶される感じ。銀はやわらかく手触りがやさしい。真鍮は、えも言われぬステキな色。硬くて丈夫。先生のコーヒーミルは真鍮製。

### 学習指導要領

#### 「深い学び」ってなんだ？

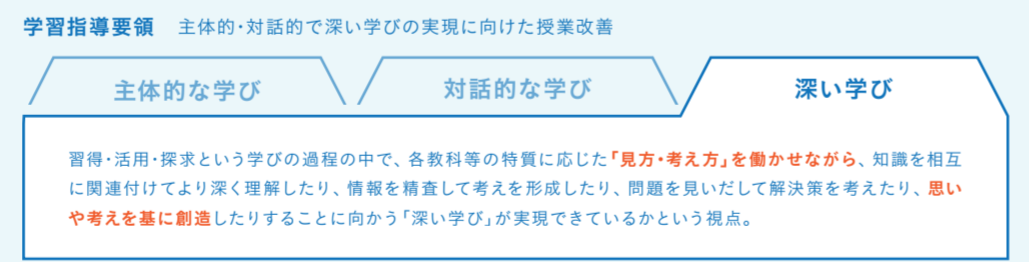


思いから表現が生まれる (p.02) 思いに寄り添う (p.07)

「見方・考え方を働かせながら、思いや考えを基に創造」

今号のキーワードは「深い学び」。その鍵となるのが「見方・考え方」です。そもそも子どもたちは「見方・考え方」を備え、生活の中で形や色に意味を見いだしています。図工の時間では、この「見方・考え方」を引き出し、思いを基に創造できるようにすることで、子どもの学びは深まっています。そのような「深い学び」を繰り返し、子どもたちは社会においても「見方・考え方」を自在に働かせ、新しい価値を創造し続けていくのではないのでしょうか。

思いに寄り添い支援すること、それが「深い学び」の実現につながるのです。



※造形的な見方・考え方 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。  
(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編・図画工作編より)

### 表紙 『ひもひもワールド』(3年生)

広い場所で、ひもをつないで思い付いたことを試す造形遊びの題材。「ことここをつなごう」「ここにはこの色がいい」、次々と試しながら、形や色で意味をつくりだす。思いを基に「つくり、つくりかえ、つくる」ことで、子どもたちは創造力を育んでいる。  
平成27年(2015年)年度版 小学校図画工作科教科書3-4上 p.34-35

クリエイティブディレクター：池田晶紀(ゆかい)  
アートディレクター：畑ユリエ  
表紙写真：池ノ谷侑花(ゆかい)  
フォトグラファー：池田晶紀、川瀬一絵(ゆかい)  
イラストレーション：やまねりょうこ(ゆかい)

### 図工のみかた 08号

日文教育資料【図画工作】  
平成30年(2018年)11月30日発行  
編集・発行人 佐々木秀樹  
発行所 日本文教出版株式会社  
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。  
CD33431

### 日本文教出版 株式会社 http://www.nichibun-g.co.jp/

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5  
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171  
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16  
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618  
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14  
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938  
東海支社 〒461-0004 名古屋市中区東1-13-18-7F-B  
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261  
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-11  
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

### INTERVIEW

## 竹井 史

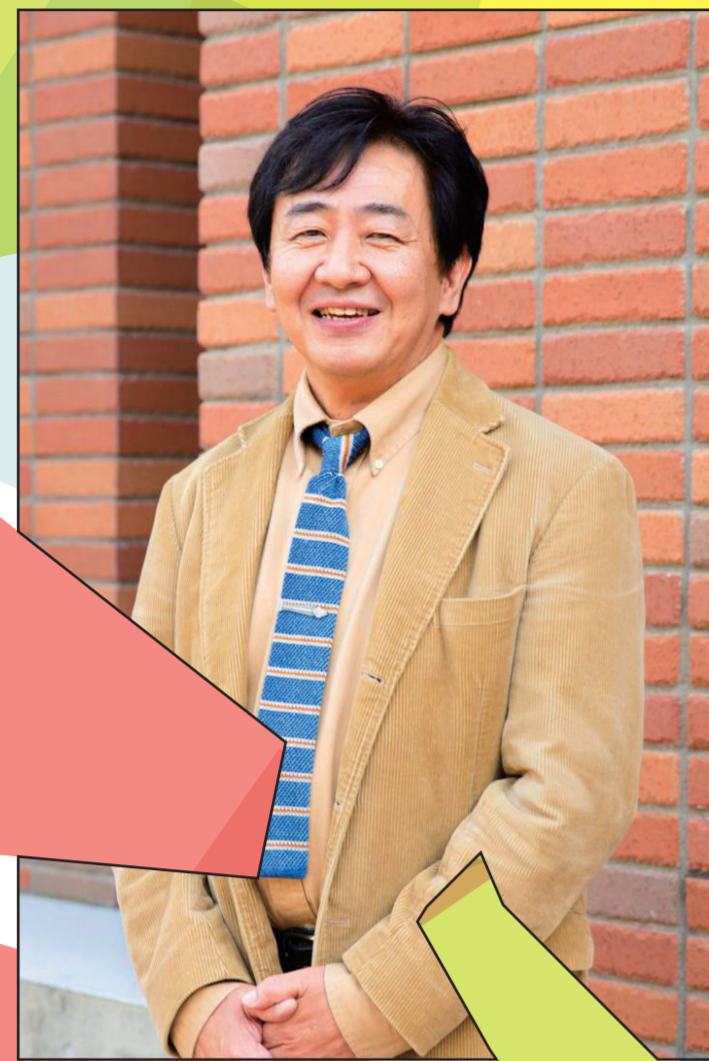
(同志社女子大学教授)

「主体的・対話的で深い学びってなんだ?」①

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報  
詳しくはWebへ!

未来をになう子どもたちへ  
日本文教出版



今号のキーワードは、「主体的・対話的で深い学び」の中の、「深い学び」。

子どもの姿と図工の見方について、図工の味方、竹井史先生に聞きました。

語り手

竹井史 (同志社女子大学教授)

思いがあるから、表現が生まれる

竹井史先生(以下、竹): 子どもって、大人にとっては不思議な色を塗るときありますよね。ぼくが2年生を担当したとき、授業でニワトリを見に行ったあと、学校に帰って図工でニワトリの絵をかくことにしたんです。そのときある女の子が、羽と尾を色鉛筆で水色と緑色と赤色に塗ったんですよ。

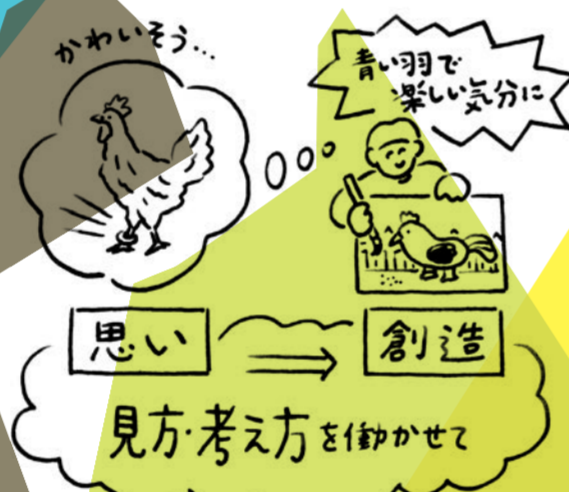
編集部(以下、編): ニワトリは白かったのに、色を付けた?

竹: うん。当時は、2年生だしなんとなく色を付けたくるのはしょうがないかなって思った。でもやっぱり気になって「なんでこんなふう塗ったの?」って聞くと、その子が言うんです。先生がじっくり見なさいって言ったから、じーっと見てたら、ニワトリの足に輪っかが付いてるのに気付いた。それで図工の時間、その輪っかのことを思い出したら、なんだかわいそうになってきた。なんとかして楽しい気分させてあげたくて、「そうだ、羽をキレイな色にしてあげれば、ニワトリさんも楽しくなる!」って思って塗ったって。色を塗ったのは幼いからなんかじゃない。ちゃんと、7歳の子なりの理由があった。ニワトリさんを励ましたいという思いがあって、その子なりの表現が生まれたんです。表現に向かうってこういうことだと、はっとしました。

編: 形や色で意味をつくりだす、まさに造形的な見方・考え方を働かせている姿ですね。ということは「深い学び」になっている?

竹: この子は見方・考え方を働かせながら創造する「深い学び」をしている。でも本当は「深い学び」ができるようにぼくが授業改善しなきゃダメですよ。こんなふうには子どもはそもそも見方・考え方をもってるんだから、図工の時間はそれを引き出してあげれば良い。そのためにその子なりの思いが出てくるようにすることが「深い学び」のスタートになるんです。想像が広がるテーマや、子どもが「こうしたい」と思う仕掛けや手立てを考える。それを考えるには、子どもに寄り添うことが何より大切なんです。

深い学び



深い学び

『ぼくらの役割は、7歳の子なら7歳の子の世界を生き切れるように支援すること。』

その子のしたいことに寄り添う

編: 子どもに寄り添った上での手立てや支援って具体的にどうすればいいのでしょうか。

竹: 例えば、低学年でクワガタの絵をかいた子がいて、よく見ていると、この子はクワガタのメカニクな感じとか、足や触角の細かいところまでかきたいのかなって思いました。別の子はザリガニをかいて、甲羅の色に興味があるような気がする。そうすると、クワガタの子はバスだけだと細かな線は難しいからペンも必要な、ザリガニの子は甲羅の色合いを表現するのに絵の具が必要になってくる。その子の思いやこだわりがあって表現の方法は決まってくるので、それに対してどう支援するかですね。

編: そういう支援を経験することで、子どもたちは、思いに合わせて自分で表現方法を決めて、材料や用具を準備するようになっていきますよね。

竹: そう、思いを基に表現できるよう、環境を整えることが「深い学び」のために大切なこと。声かけも一緒に。ある学校で、砂場で造形遊びをしたとき、子どもが、初日はツルツルのお団子を丁寧につくっていたのに、次の日は雑につくっていたらしいんです。担任の先生は、どうして雑なのか不安になった。でも子どもに聞いてみると、昨日はきれいな団子をつくりたくてつくって達成感があった、きょうはお団子屋さんごっこをしたいからたくさんつくりたいって。その子のしたいことが前日と違ったんです。そこで「どうして昨日みたいにつくれないの?」って丁寧につくらせようとしても意味がない。

編: 例えば、「これはどんな味?」って声をかけたり?

竹: そう。特に造形遊びってしたいことがどんどん変わっていくものだから、その子のしたいことに寄り添って、その気持ちを感じることが支援につながるはず。そういう意味では、「図工が苦手」と思っている先生は、子どもの「図工が苦手」という気持ちを感じられる、いい先生。子どものつまづきポイントに気が付けるんですから。

【関連】造形遊びをする活動において「つくり、つくりかえ、つくる」は「深い学び」に向かう学習過程であり、このような学びの過程を子供自身が実感できるようにすることが大切である。(初等教育資料 No.961 p.7より引用)

深い学び

『花を咲かせようとして、無理やりつぼみを開く人はいないよね。』

竹: ぼくの考える図工って、つくるのは半分くらい。それ以上に、つくったものを通して人とつながる体験や、つくる前の感性を働かせる経験が大切。特に自然と関わる感覚的体験を通じて、もっといろいろなことが学べると思っています。例えば粘土。油粘土は放っておいても硬くならないし、いつでも人間の言うことを聞いてくれる。でも、土粘土は水が多ければベチャベチャになるし、少なればひび割れて、思い通りになってくれない。だけど、そこで子どもたちはどうしたらいいんだと考えるじゃないですか。そのときに、まずは自分が相手に寄り添って、何をどれくらい、どうしたら、どういう状態になるかと学ぶわけです。相手のことを知りながら、調整しながら、最終的に表現につながる。それは人間が自然環境に関わる上で非常に重要なことじゃないか、もっと言えば、環境教育を考えたときの原体験になるんじゃないかなって思っているんです。

編: そういう意味では、材料に触れることがESD(持続可能な開発のための教育)につながっている。

竹: そう。油粘土は、そのときの思いをガツと形にしていくときにはいい素材ではあるんだけど、それだけやっちゃうと人間が自然界の頂点っていうふうにおどろいちゃうような。

編: なんでも自分の思い通りになるって思っちゃう。

竹: そうそう。自然の素材を使って遊べるということは、子どもたち自身が調整力を学んでいくということなんじゃないかな。図工って、目や手で、面白くていい気持ちを楽しむ時間。だから、自然の素材をどんどん使って、扱いにくさも含めて、先生も子どもも楽しんでほしいなって思います。

深い学び

『土と関わることで、人と関わるという応用問題を解くきっかけになる。』



思い通りにならないことから学ぶ

調整力



たけいひとし 1959年、大阪府生まれ。富山大学、愛知教育大学教授、愛知教育大学附属名古屋小学校長等を経て、現在同志社女子大学現代社会学部現代こども学科教授。ものづくりによる地域活動を継続し、これまでに7万人の親子と触れ合う。名古屋市造形研究会顧問など、日本文教出版小学校図画工作教科書の著者の一人として美術教育の発展に努める。

『やぶいた かたちから うまれたよ』

かみを そっと やぶいてみよう。  
やぶいたかたちが なにかに みえてくるよ。  
どんなこと おもいついたかな。どんなふう に しようかな。

(平成27年(2015年)度版 小学校図画工作科教科書1・2上p.24-25)





思いから生まれる。

「できた！」のその前には、  
その子の「思い」があります。  
形や色から感じたことがあって、  
「こうしたい」という思いが出てきて、  
その子なりの表現が生まれる。